

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	子宮頸癌腔内照射におけるプラスチック製アプリータの再構成方法の比較
	研究対象者	子宮頸がんと診断された患者さんのうち、2023 年 11 月から 2023 年 12 月の間に神奈川県立がんセンターで小線源治療を受けられた方
	研究目的	本研究では、子宮頸癌の腔内照射に使用する治療用器具のプラスチック製アプリータを対象として、Manual 法と Modeling 法によるアプリータ再構成の違いを検討する。アプリータ再構成とは、CT 画像上で確認したアプリータの位置・形状をもとに、線源が通過する経路を治療計画装置上に再現する作業である。実際の線源位置と治療計画上で設定した線源位置を比較し、両方法による再構成位置の違いを評価する。また、複数の計画者がそれぞれ再構成を行い、計画者間での再構成結果のばらつきを評価する。これらの結果から、Manual 法と Modeling 法における再構成方法の特徴および計画者間の違いを明らかにすることを目的とする。
	研究方法	子宮頸癌患者の小線源治療腔内照射において取得された CT 画像(1名、3症例)を用いて、4 名の診療放射線技師がそれぞれ Manual 法および Modeling 法による治療計画の過程であるアプリータ再構成を行う。各計画者が設定した線源停留位置の座標を比較し、計画者間における再構成結果のばらつきを評価する。
	個人情報保護	本研究では患者の CT 画像そのものを研究として使用することではなく、CT 画像を用いた治療計画から得られる線源停留位置の座標を研究対象とします。研究成果の発表においても、患者を特定できる情報および患者の CT 画像は使用せず、個人が特定されることのないよう配慮します。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 9 月 1 4 日 ~ 西 暦 2 0 2 6 年 1 0 月 1 5 日
	利用又は提供を開始する時期	[X]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃(研究の進捗によって前後いたします)
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	[] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[X] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[] 年齢、[] 生年月日、[] 性別、[] 既往歴、[] 併存疾患、[] 外来日・入院日・退院日、[] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[] 臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、[] ゲノムデータ、[] 看護記録、[] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 放射線治療技術科・青木麻美
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター・放射線治療技術科・青木麻美・045-520-2222 利用停止のお申し出は 2026 年 9 月 30 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります